

2年ぶりの八千代市新高共進会開催

～梨晩生品種「新高」の品質向上に向けて～

千葉農業事務所改良普及課 令和3年10月5日発

八千代市では、現在 59 戸の農家が梨を 54ha 栽培しています。販売方法は直売が主で、各農家では、消費者の需要に応えるために様々な品種を栽培しています。

9月22日に主要品種の一つである「新高」の品質向上を目的として、定められた規格の果実を出品し、品質を競う「新高共進会」がJA八千代市本店で開催されました。

この共進会は、昨年度は新型コロナウイルスの影響により中止となったため、2年ぶりの開催となりました。今年度は市内から34点の出品があり、果実の重さや糖度を測定した上で外観や食味について審査を行い、賞を決定しました。

今年は夏季の高温により発生するヤケ症状が少なく、出品された梨の多くが品質の高い果実でした。農業事務所では、今後も高品質な果実を生産するための技術向上を農家とともに進め、梨の安定生産に向けた支援を行っていきます。



出品された新高の果実



審査の様子